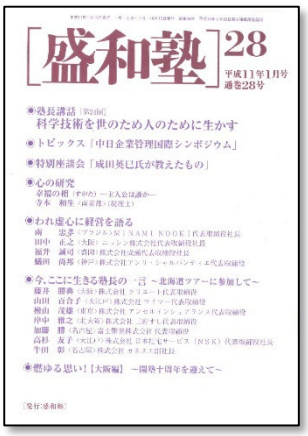


【参考資料】
機関誌「盛和塾」28号
（平成11年1月号）

今ここに生きる塾長の一言

「盛和塾」では、年間テーマとして「今ここに生きる塾長の一言」を連載しています。塾長に学んだことが、どのように経営に生かされているか、あるいは経営者としての考え方に反映されているか。塾生の皆さまの実践論として読んでいただければ幸いです。

〈大江戸〉
株式会社ワイツー代表取締役
山田 百合子

塾長の一言

「そんなことを言ってくれる塾生が出てきて嬉しいですよ。」

塾長を目の前にしてドキドキ

私はこれまで「ネバーギブアップ」「思いは通じる」という事を自分自身のポリシーにしてきました。

プロデューサーという職業上、海外のあちらこちらへ取材や撮影に出かけてゆきますが、どんなに万全な対策を整えていても、いざ現場に着くと必ずと言っていいほど何かトラブルが起きます。

今では何が起きても、当たり前と思っていますが、それは今までの経験でどんな状況の中でも諦めず、誠意をもって対応すれば必ず道は開ける、それよりもっと面白くなる事もしばしばだからです。

ですから、塾長が「仕事・人生の結果＝能力×熱意×考え方」について語られた時、私は大きくうなずきました。

私は、能力は並以下ですが、作品を創る熱意にかけては誰にも負けない、そしてどんな事でも諦めず誠意をもってぶつかってゆけば大丈夫、だってこんなに一所懸命やっているんだもの、神様だって見捨てはしない…と、心のどこかでそんな事を思っています。

その私が、塾長を目の前にするとオドオド、ドキドキ…。そんな自分にショックでした。

北海道ツアーで頂いた大きな元気

北海道ツアーでは、塾長を囲んで、三泊四日という貴重なお時間をご一緒させて頂き、本当に童心に戻ったような気分でした。

同じ経営という悩みをもった塾生と、同志のように塾長のお話に一喜一憂し、たとえ満天の星空が見えなくても、誰一人として文句が出ません。移動バスの中では、和気あいあいと盛和塾とのかかわり合いについて、いろんな方のお話が聞け、充実の時でした。

また、福井事務局長のおはからいにより、バスの中で塾長の隣の席に座らせて頂くことができ、それまでずっと考えていた事を、お話しさせて頂きました。

「二十一世紀は、心の時代だと思います。プロデューサーとして、映像を通して、世の中にメッセージしてゆきたい。

バブルがはじけ不況が続くこの時代、皆どうしてよいのか悩んでいますが、この盛和塾にその答えがあるように思います。だから、いつか映像にさせて下さい！」と。

そうしたら塾長に、「そんなことを言ってくれる塾生が出てきて嬉しい」とおっしゃって頂き、今ではそのお返事を胸に、大いなるプレッシャーを感じながらも、いつか盛和塾を、そして塾長の思いを映像に託してメッセージできたらと思っています。